

## アメリカ

## 在宅での遺伝子検査を利用すべきか

● CR ホームページ <https://www.consumerreports.org/genetic-testing/at-home-genetic-test-kits-what-you-need-to-know/>

ほか

在宅での遺伝子検査が広がっている。多くの検査業者の中で、FDA（食品医薬品局）が唯一承認した検査業者では、今年乳がんの項目を追加し、パーキンソン病など11疾病が検査対象となった。申し込むと郵送されるキットの試験管に唾液を採取して返送すると、2～3週間後にオンラインで結果を確認できる。医療保険の制限で病院の高額な検査ができない人も、処方箋<sup>せん</sup>不要、しかも低額（199ドル\*）で将来の疾病リスクに備えられるとうたう。

しかし、遺伝子検査は家庭で血圧を計測するのは異なると専門家は言う。医師は、深刻な先天性異常の有無やがん発症の可能性を多くの遺伝子変異解析に加え、家族歴、既往症、生活習慣、環境、さらに人種等を含め包括的・専門的に診断する。単純な在宅検査の結果では、誤った安心感や不要な恐怖を

与えると懸念する。また、がんやアルツハイマー病などの発症に遺伝子の関与はわずか5%程度で、臨床的に有用ではない。CR（コンシューマーレポート）は、興味本位以外には勧めないとし、自覚症状等があれば医師の診察を受けるべきとしている。

さらに、情報漏えいも心配だ。オンラインで入手した医療情報は病院や医師が管理する場合と異なり、法的保護の対象ではない。検査会社が第三者に販売したり漏えいする危険性もあり、本人のみならず親類縁者も各種保険への加入拒否や就労機会<sup>いっ</sup>を逸する原因となるかもしれない。CRでは、申し込む際に遺伝子情報の第三者への販売・提供に同意しないことや、検査結果のダウンロード後は即座にアカウントを削除することなどを助言している。

\* 1ドル=約109円。なお、下記の記事では1オーストラリアドル=約83円。



## オーストラリア

## 人気のペット犬に予期せぬ出費

● CHOICE ホームページ <https://www.choice.com.au/outdoor/pets/health/articles/flat-faced-dog-breeds-pugs-frenchies-british-bulldogs-vet-bills>  
● Which? ホームページ <https://press.which.co.uk/whichpressreleases/pet-peeve-cost-of-insuring-pets-concern-for-one-in-five/>

ほか

フレンチブルドッグやパグ、シーズーなどの短頭種は、交配や改良を繰り返し、平坦な顔、大きな瞳を持つ現在の姿となった。だが、RSPCA（王立動物虐待防止協会）やAVA（オーストラリア獣医師協会）は、特有の「健康問題」に懸念を示している。短頭種は、呼吸困難などのBOAS（短頭種気道症候群）やそれに付随した熱中症を起こしやすく、重症化すると死に至る。また、眼球傷害、皮膚の炎症を起こしやすいほか、狭い骨盤や大きな頭蓋ゆえ難産になりやすい。3,000ドルの子犬を購入したものの、緊急手術に4,000ドルかかり、さらに6,000ドルの手術も見込まれている例など、多くの飼い主が予期せぬ高額出費を強いられている。

それでは消費者は、ペットショップ等に対し、「欠陥商品」として損害賠償を請求できるのか。

CHOICE（オーストラリア消費者協会）や動物関連法の専門家の見解では、消費者にその権利はあるが、購入時に特別に「問題なし」の確約を得た場合を除き、「欠陥」とは見なされない。短頭種の約半数はBOASを発症するという研究もあり、そもそも「欠陥」ではないという意見もある。ペット保険の保険料も短頭種は高額である（Which?調べ）が、早ければ生後半年には症状が現れるため、早期の加入を勧める。しかし、購入時に発行される獣医師の証明書に「鼻息が荒い、いびき様の呼吸（いずれもBOASの兆候）」等の記載があると保険金の支払いを拒否される場合もあると注意している。

購入する場合は「短頭犬特有病無し」という健康証明書を得る、発症した場合の医療費請求の確約を得る、等が重要としている。



## ドイツ

### 国外カーシェアリングの使い勝手は？

●商品テスト財団「テスト」2018年4月号 <https://www.test.de/Carsharing-Mit-Car2go-Drivenow-und-Flinkster-im-Ausland-unterwegs-5299336-0/>

ドイツで市場が伸びているカーシェアリング。シェアの方法も多様化しており、同サービスの利用者は約200万人といわれる。商品テスト財団は周辺国のカーシェアリング事情を調査した。

対象として選んだのは、ドイツを代表する3サービスである。そのうち2つは自動車会社が運営するフリーフローティング型サービスで、特定区域内であれば好きな場所で借り、どこで返却してもよい。車が必要になると、専用アプリで近くの車を検索し、会員証をかざしてドアを解錠し、支払いもアプリで済ませる。残りの1つは鉄道会社が運営するステーション型サービスで、決められた拠点で借り、同じ場所に返却するしくみである。いずれのサービスも、最初に会員登録が必要となる。

今回、同財団の編集者が国外でサービスを利用し

てみた。周辺国の大都市を中心に利用可能なフリーフローティング型の2サービスのテストは、ミラノとウィーンで行った。その結果、すぐに車が見つかり、解錠、運転、支払いもスムーズだった。ただ、駐車できる区域は中心街等に限られ、ミラノ・マルペンサ空港では2社のうち1社のサービスが利用できなかったという。一方、北イタリアの中小都市とスイスで利用可能なステーション型は、ブレシアでテストした。借りるまでに少々手間取ったが、その後は順調だったという。ただし、カーナビが設置されていないため、必要な人は持参すべきと助言する。

同財団は、国外でも便利なカーシェアリングだが、距離が長い場合はレンタカーのほうが割安だとする。そのうえ、ドイツのサービスを利用できる都市はまだ少ないので、注意が必要だとしている。



## オーストリア

### チキンナゲットの実態は厚い衣の成型肉

●VKI「消費者」2018年3月号 <https://www.konsument.at/huehnerguggets032018>

●オーストリア食品法典 <http://www.lebensmittelbuch.at/b-14-fleisch-und-fleischerzeugnisse/a-fleisch/a5-formfleisch/>

自宅で簡単に調理できるスナックとして、オーストリアで普及しているのが冷凍チキンナゲットである。VKI（オーストリア消費者情報協会）では冷凍チキンナゲット12商品を試買し、鶏肉の品質や衣の割合、原産地等について比較テストを行った。

その結果、成型肉を利用した商品が目立ったという。成型肉の具体的な定義や規制は、EU域内でも国によって異なる。オーストリア食品法典によると、鶏の成型肉とはヘーゼルナッツ程度の大きさに切ったスジ肉に食塩、香辛料を入れ、機械的に混ぜ込んで成型したもので、鶏皮を加えることも可能とされる。このような成型肉を使った食品には、「小さな肉片を加工した」等の表示が必要となる。

ところが、筋肉が判別できないほど細かく切断した肉を加工しているのに、表示が不十分なものが4

商品あり、これらの商品は肉質が悪いと評価された。一方、肉質が良いと評価されたのは、スジ肉の割合が高い3商品だった。

また、商品に占める衣の割合を調べたところ、27%だった1商品を除き、残りはすべて4割前後（38～44%）と厚めの傾向にあった。さらに、肉の原産地を調べるために安定同位体分析を行うと、オーストリア産は2商品だけだった。残りの商品も欧州産だったが、3カ国（オランダ、フランス、スペイン）の肉を混ぜているものが2商品見つかри、同協会は驚きを隠せないとしている。

なお、味のテストも行ったが、肉の品質とおいしさは、あまり関係ないという結果となった。オーブンよりも、フライパンで調理したほうがおいしいと評価されることが多かったという。